

巻 頭 言

ウェブジャーナル編集委員長

谷口 吉光

(地域連携・研究推進センター教授)

秋田県立大学のウェブジャーナルには A (地域貢献部門) と B (研究成果部門) の 2 種類があり、A は毎年 3 月、B は毎年 9 月に刊行されてきた。いずれも本学教員の多彩な地域貢献活動や研究成果を広く社会に広く発信するという目的で 2014 年に創刊され、これまで A が 7 号、B が 6 号まで発行されてきた。

ところが、諸事情により 2019 年度 B を A に合体させることになった。それにより新しい「ウェブジャーナル A」には本学教員の地域貢献活動の報告と、地域貢献に関連した研究成果が両方掲載されることになった。本号 (ウェブジャーナル A 第 8 号) は合体されたウェブジャーナルの最初の号である。

ウェブジャーナルであるため、インターネットでキーワード検索してヒットした論文だけを読む場合がほとんどだろう。だからそのジャーナルがどんな趣旨と方針で編集されているかということに気を配る人はほとんどいないのかもしれない。しかし、ほかの大学で刊行されている紀要や地域貢献報告書などと本学のウェブジャーナルは次の点で違いがある。そのことは本学のウェブジャーナルの根幹に関わることなので、ここで述べておきたい。

第一に、原稿は編集委員会が教員に依頼して書いてもらうのではなく、毎年学内で投稿を公募し、自発的に投稿された論文を掲載している。こうした形にしているのは、「本学の教職員の活動を論文の形で整理して記録し、教職員各自の実績として目に見える形にする」という創刊当時の方針に基づいている。そのことは地域貢献活動について特に重要である。現在のアカデミズムは学術研究を高く評価する半面、研究者による地域貢献活動の価値を評価しない傾向があるため、地域貢献活動をしてもその成果を発表する場 (メディア) がないという弊害を生じているが、本ジャーナルはささやかながら、学会誌に準じる形で、地域貢献活動を公表できる場を提供し続けているのである。

第二に、本学のウェブジャーナルでは、学会誌のような査読はしないが、編集委員がすべての原稿を読んで内容と体裁の確認 (チェックと呼んでいる) をし、著者にコメントを返して必要なら修正を求めるといった作業をしている。掲載を許可された論文は外部業者による校正作業と英文要旨のネイティブチェックを受けてもらっている。それほど厳しいハードルではないが、このような作業によって内容・形式ともに一定の水準を維持する努力を続けているのである。

本学のウェブジャーナルに掲載された論文が、それを求める読者の目に留まり活用されることを心から願っている。

2020 年 9 月